



収録の様子（チャンネルO局舎。右はチャンネルOアナウンサーの坂口みゆきさん）

インタビュー
新春 Interview
市の広報企画番組として、1月1日
⑨～3日⑩にチャンネルOで放送し
た「松崎市長新春インタビュー」。
その内容を抜粋して掲載します。
■問い合わせ 市民協働課 ☎64・6009

―新春を迎えて
今年の取り組みは―

市長 昨年は、念願の舞鶴若狭自動車道が全線開通しました。近畿・東海・北陸が高速道路でつながることにより、小浜をより身近に感じていただき、訪れる人が増えるなどさまざまな効果が期待できるようになりました。全線開通による効果を一過性のものではなく、終わらせるのではなく、交流人口の増加を図り、経済の活性化や魅力ある産業の振興、にぎわいを創出するまちづくりにつなげていくことが重要です。

平成27年も前年に引き続き小浜にとって、大きな転換期であると考えています。この重要な時期に挑む「課題と施策」については、「小浜、笑顔あふれるまちに」をスローガンに、

- 一. 安全／安心な暮らし
 - 二. 地域／人づくり
 - 三. 魅力ある産業／観光
 - 四. 賑わいの創出
 - 五. 効率重視の行財政改革
- この五つの公約に沿って、各種の施策に取り組みますので、市民の皆さんのご支援、ご協力をよろしく願います。

◆安全／安心な暮らし
昨年は、平成25年の台風18号による災害復旧に努める中、本市に接近した台風もありましたが、幸いにも大きな被害はありませんでした。しかし、8月の広島市の土砂災害による被害状況を見ると、改めて避難情報の発令の難しさを感じました。今後も人命を第一に考え、空振りを恐れず避難情報の発令に努めます。



水防訓練（5月31日・南川河川敷）

◆地域／人づくり

市では人口減少対策として、企業誘致による雇用の場の確保や子育て支援など、さまざまな施策に取り組んでいます。将来にわたって持続可能なまちにしていくなめには、この問題への対応が、大変重要な課題となっています。全庁的に取り組むべきこととして、昨年11月

小浜、笑顔あふれるまちに

笑顔で生活できるまち、笑顔で夢に向かって頑張れるまちを目指して

に、わたしが本部長となり「人口減少対策本部」を設置し、市の特性に即した施策の検討を進めています。

小学校の統合再編については、平成31年4月の開校に向けて、遠敷・松永・宮川・国富の4小学校を統合する（仮称）東部小学校の建設事業に取り組んでいます。平成27年度から造成工事などのハード整備に着手する予定です。

市立保育園の統合・民営化については、効率的な運営と質の高い保育環境の確保を図るため、平成19年11月に「小浜市立保育園の統廃合及び民営化計画」を策定し、取り組んできました。現在、民営化の2例目である雲浜・西津保育園の統合民営化を進めており、名称を「やまなみ」保育園として、今年4月の開園を目指しています。



小浜市人口減少対策本部 第一回会議（11月25日・市庁舎）

◆魅力ある産業／観光

雇用の場の確保は、人口減少問題を考えるうえで、重要な施策であり、特に若者に定着してもらうためには、魅力ある雇用の場の確保が不可欠です。このため、特に企業誘致に重点を置き、わたし自身が先頭に立ち、誘致を進めてきました。昨年5月には日本電産テクノモーター(株)福井技術開発センターが第2期棟工事に着手いただき、今春には操業の予定です。これにより、新たに650人の増員が可能になることから、今後、毎年50人以上の募集を計画していると聞いています。

また、農林漁業者の所得や地域における雇用を確保するためには、生産と加工・販売部門を結びつけた六次産業化を進めることが重要です。また、観光客誘致による商工観光分野の活性化の観点からも、六次産業化や異業種連携により新たな特産商品を開発するなど、成果を出して行く必要があります。昨年度より「小浜市六次産業推進チャレンジャー」を創設し、市内の農林漁業者およびその連携体に対し、新商品開発や販路促進にかかる費用の一部を補助する



建設中の日本電産テクノモーター(株)福井技術開発センター第2期棟（1月16日・遠敷）

など、六次産業化の芽を育てる支援を実施しています。

◆賑わいの創出

今年、舞鶴若狭自動車道の全線開通効果を持続させ、また、来ていただいたお客様に小浜の魅力に触れていただき、リピーターとなっていただけのように、滞在型・体験型観光基盤の充実などに努めます。また、観光客の滞在時間を延ばし、地域経済や産業に効果をもたらすため、小浜西組重伝建地区を中心に多くの観光スポットが集積する小浜地区中・西部地域における「まち歩き観光基盤」の整備への取り組みを本格化させています。つばき回廊商業棟跡地の「まちの駅」整備、三丁町や旧丹後街道などにおける街路景観整備に向け、設計作業を

着々と進めています。今年は、これらにいいよ着工し、一日も早い供用開始を目指し、多様化する観光ニーズにきめ細かく応える観光基盤整備にソフト事業、ハード整備とも、一層努力したいと思えます。今年度は、ミラノ国際博覧会への参加、食のまちづくりNEXUSステージプロジェクト事業が完成するなど、「食のまちづくり」の新たな扉が開く大切な年でもあります。改めて「日本食文化」小浜から世界へのスローガンのもと、日本全国、世界を視野に入れて「食のまち小浜」の魅力を発信していきます。



若狭おばま秘仏めぐりツアー出発式（9月13日・道の駅若狭おばま）

北陸新幹線若狭ルートの実現については、敦賀までの工事が始まった今、若狭ルートを確実に実現に結び付け、子孫の世代に引き継いでいく

―今年の抱負を―



北陸新幹線若狭ルート建設促進同盟会 総会（6月21日・中央公民館）

◆安全／安心な暮らし
◆地域／人づくり
◆魅力ある産業／観光
◆賑わいの創出
◆効率重視の行財政改革

◆今年度の抱負を―
市長 今年、小浜の地域資源を生かした自然・文化・歴史をストーリー立てて、戦略的に国内外に情報発信することで、公約である「市民の皆様が笑顔で生活できるまち、笑顔で夢に向かって頑張っていただけではない」を目指し、精一杯、努力します。皆さんの一層のご理解・ご支援をお願いします。